

ネイチャーウォーク

平成 25 年 6 月号

2013. 6. 23 発行

(通巻第 234 号)

ECO  SAITAMA

公益財団法人

埼玉県生態系保護協会

部会：自然を歩く会

■先月のネイチャーウォーク

こ 古今搭載 体の中に昔と今を取り込んで

(古今東西)

話題ののぼうの城へと

(JR 北鴻巣駅～JR 行田駅)

5 月のネイチャーウォークは、小説から映画にもなった「のぼうの城」で話題の石田堤と、更に時代をさかのぼって埼玉古墳群をめぐるコースでした。行田生まれ行田育ちの島田リーダーを先頭に、暑く（熱く？）なる予感のもと、47 人で出発です。



川の向こうにサギのコロニー（集団営巣地）が見えます。ダイサギやコサギ、ゴイサギが次々と舞い降り、飛び立っていきます。

騙されないうちに先を急ぎましょう…。



しばらく行った民家の庭先に、みごとにヤマボウシの木がありました。このあたりからヤマボウシの花のように白いサギが一定方向へ飛んでいくのに気付いたでしょうか…。





団地を抜けると徐々に姿を現す堤防…これが石田堤です。

戦国時代、豊臣家の家臣石田三成が「のぼうの城」こと忍（おし）城を水攻めにするため、利根川・荒川がつくった自然堤防の上に土を盛って、5日ほどで築いたとのこと。

石田堤はこの堀切橋付近で決壊。水攻めによって忍城周辺は水浸しになりましたが、城は開城しませんでした。

「長親これか、水攻めを破るとはこのことだったか」

「城外の百姓の皆もわれらが味方よ。当たり前のことではないか」

戦国時代から残っているものはほとんどなく、現存して当時を偲ばせるものは石田堤の一部のみです。

引用：和田竜（2010）小学館文庫 のぼうの城（下）．株式会社小学館，東京．



さきたま古墳公園で昼食です。休憩後は恒例の「多く出現認定式」。今回は3名の方が「多く出現認定」されました！また、参加者の方が長々しヤマドリの尾羽を持ってきてくれたのでご紹介。



古墳の上には、現在では貴重になってしまった植物も残されているそうです。ワレモコウを見つけました。

気温が上がってきて、木陰がうれしい。明治時代の石碑の青石は、元は古墳に使われていたとか。古墳建立時、こんなでっかい石をどうやって運んだのでしょうか？



さきたま古墳公園には、登れる古墳もいくつかあります。そのひとつ稲荷山古墳に登ってみると、前方後円墳なのがよくわかりました。階段が急で大変でした。

周囲のヨシ原のオオヨシキリも、「ギョウダシー、ギョウダシー（行田市？）」と一行を応援します。

日本最大級の円墳・丸墓山古墳は、忍城水責めの時に石田軍の本陣が設置された場所です。古墳も時代のニーズに沿っていろいろな使われ方をされてしまうのですね。頂上からは今も忍城が見えるとのことでしたが、見えませんでしたでしょうか。



今回のコースは2つの解散場所（古墳公園のバス停と行田市内の忍城）を設定してありました。忍城まで頑張った人は見つけたかもしれませんが、行田のまちには色鮮やかな忍城のマンホールが！

皆さんお疲れ様でした。